持続可能な社会を目標に農業に携わりつつ次世代を育てるコミュニティ作りを目指す

「農業・環境・文化コミュニティ」をコンセプトに、カフェからスタート。現在は有機農業を手掛けつつ、ネットショップの運営、コミュニティ作りに取り組んでいる泉真仁（まに）さん。生産者と消費者、農家を目指す人と後継者を探す農家を繋ぐ仲介役として、次世代に向けた土台作りに励んでいます。

泉真仁さん

農業を始める前に農業の問題点を考えてみた

若い頃、スノーボードをするために北海道からニュージーランドまで、各地を転々としていた泉真仁さん。友人に誘われたのを機に長野県にやって来ました。『食べ物って、人間が生きていくための根幹ですよね。持続可能な社会を作っていくためには、食べ物を生み出す農業を立て直さなければ』と感じたといいます。もともと興味があり、やるなら環境に負荷のかからない農業をと、自然に「有機農業」にたどり着きました。そこで、有機農業をやっている人に話を聞こうと訪ねたところ『みんなやめた方がいいって言うんです。食っていけない、つらい、大変だと』。農業をやりたいという若者に、なぜやめろというのか？その疑問をきっかけに、泉さんは自分がやりたい農業を実現するためにはどうすればいいか、考える時間と仲間を作るため、まずはスローカフェを始めました。それが長野市で無農薬野菜を中心に提供していた「ＳｌｏｗＣＡＦＥずくなし」です。しかし、開店４年目の２０１１年に震災が起こり、時代が変わると感じた泉さんは店を閉め、千曲市に移転。そこから本格的に農業に着手し始めました。

農業を発展させていくために

農業で食べて行くにはどうしたらいいか？安定した売り先を確保すれば経営が成り立つはずと考え、まずは無農薬野菜の生産農家25軒と提携した、ネットショップをオープンさせました。ほかにも、農産物を長野市のレストランに卸したり、イベントがあれば売りに行ったりと、生産と流通の両立に尽力しました。『それぞれがやれば中間マージンもなく、売上も増えるけれどなかなかそうはいかない。自分でやってみて思うのは、農業はやることが多すぎる』と、忙しい農家に代わって、生産者と消費者をつなぐ役割を担っています。

次世代への土台作り

手始めに、更級にコミュニティの場となる自分の家を、仲間たちと建て始めました。さらに姨捨の荒れて使われていない棚田を一区画購入したといいます。姨捨の棚田は国の重要文化的景観にも選定されている場所です。『世界農業遺産に申請しようという、その場所が廃れていくのはどうなのか。継ぐ人がいないというのは文化的に崩壊しかかっているのではないか』と考えてのことだったと言います。農業が廃れたら田畑は荒廃し、景観も損なわれてしまいます。農業は景観を保つ働きもしているのです。また、八幡の農地付きの倉庫を友人たちと新たに借り受けたのをきっかけに、泉さんはそこを農業で独立したいと考えている人や移住を希望する人の情報ステーションや自立のための協働作業場にできたらと考えています。この更級、棚田、八幡が「農業、環境、文化」の三本柱の基地となり、コミュニティができるという夢。野菜を作るだけでなく、次の世代を担う人を育てていくことも大切なのです。『これから高齢者が農業をやめていくと、さらに危機的状況になるはずです。危機感を感じてから始めたのでは遅いのです。特に農業は人がいなければ始まりません。その土台になる場所を作りたいんです。自分の子どもが大きくなった時に、ここに住みたいと思ってもらえるような場所にしたいですね。ここでふんばっていかないと』と笑顔を見せてくれました。

日本の食糧自給率は年々低下しています。誰かが農作物を作り、できた物が店頭に並ぶ。それが当たり前のように日々過ごしていますが、これはいつまで続くのでしょうか。今一度、立ち止まって考えてみる時がきているのかもしれません。

文・岡宮優子（ライター）

真仁さんと提携農家さんの野菜はここで買うことができます。

◉通販サイト『やさいずくし』shinsyu-yasai.com

◉移動販売 毎週金曜日 長野市内下記スポットに真仁さんがおいしい野菜を車にのせてやってきます。ぜひぜひ！

13:00　助産所ほやほや（北堀）
13:30　ヘナ専門美容室イシス（中越）
13:45　やわらぎや（三輪）
14:45　Ti-Ku（東町）
15:00　こまつや（西之門町）
15:10　ナノグラフィカ（西之門町）
15:20　まほう堂（桜枝町）
15:45　オルカ（鶴賀権堂町）
16:00　カフェ日々（南長野諏訪町）
16:30　マゼコゼ（長門町）
※時間は目安です。

＜移動販売＞
ヘナ専門美容室 イシスさんにて

KIBO 希望 長野で農業！